

長短判断使う脳に差

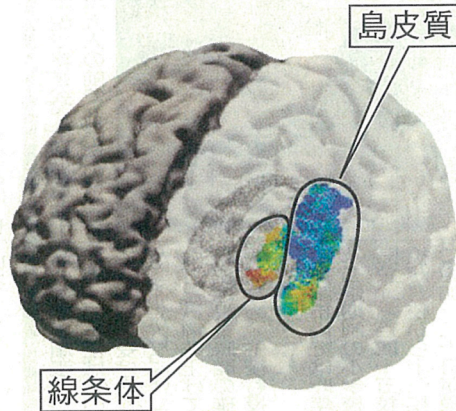
キレるうつ病の解明にも期待

損得を判断する場合などで、長期的に考えるのと短期的な考

えのときで脳の働く部位が違

うことぞ、国際電気通信基礎技

脳の中では、長期的な判断をするときは島皮質、線条体という部位の上部が、短期的な予測をする時はそれぞれの下部が活発に動いている(銅谷賢治・ATR室長提供の画像より)



術研究所(ATR)、広島大など、研究グループは、社会的な問題になっている「キレる」などの衝動的行動の原因解明に寄与できると期待している。

研究は、二十人の被験者に、近い将来に少額だが確実に利益のある短期予測と、当面は損するが遠い将来に高額の利益のある

ATR・広島大など
ネイチャーに発表
長期予測の両方をして金もうけをするゲームを行ってもらった。ゲームをしながら、医学などで使う機能的磁気共鳴装置(fMRI)で検査し、脳のどの部分が活性化しているか調べた。

その結果、短期予測では、喜怒哀楽など情動的な行動に関する